

第1回教育委員会

令和3年1月12日
午後3時30分
本庁舎第11共通会議室

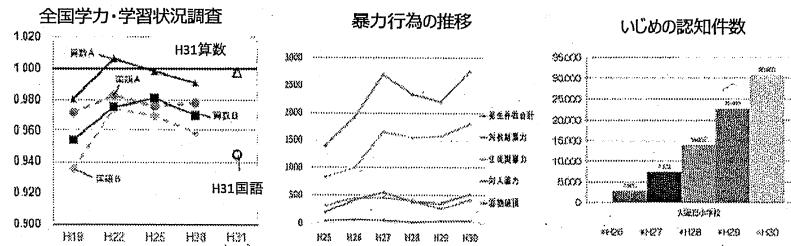
案 件

協議題第1号 令和3年度大阪府新学力テストについて(その3)

令和3年度 大阪府新学力テストについて

1. 大阪府新学力テスト導入の背景

大阪府内の小学校の状況について、とりわけ小学校国語における、全国平均との開きがさらに広がってきていくことに加え、暴力件数やいじめの認知件数についても増加している。



言語能力・読解力・コミュニケーション能力等の低さがその主たる要因であるとの現状分析のもと、学力の基盤、また生活の中でのコミュニケーション能力の中枢をなす力として、全ての教科の土台である言語能力、読解力等の育成が喫緊の課題

- 府内児童が生涯にわたる学力等すべての教育活動の基盤となる言語能力、読解力等を着実につける
- 小学校で児童の学力を向上させるためのP D C Aサイクルを確立する

(大阪府HPより)

2. 大阪府教育委員会会議における議論

- 児童の学びを生活に結び付けていく力を見取るために、非認知能力や言語能力、自分の生活にどう活かしていくこうとするのかを経年的に見ていくものにしていく。
- 小学校の先生の授業力の向上に繋がると思っている。府全体で進めていったとき、すぐには結果はないが、少なくとも3年、5年繰り返すことによって、効果がでてくると考える。
- 児童アンケートは、全国学力・学習状況調査の児童質問紙では把握できない児童の心の状態や学校で感じている気持ち等が多方面から分かるものにし、結果を学校、家庭で活かしていける中身にしていく。
- 点数だけを見るものではなく、子どもたちに大切な力が身に付くようなものにしていく。

大阪府教育委員会の施策として府下市町村教育委員会との連携のもと実施し、府全体の学力の底上げを図る。

大阪府教育委員会としては、実施目的を遂行するため、大阪市も含めすべての市町村教育委員会に「教科横断的な問題」を含めすべての教科・アンケートに参加してもらいたい。

3. 懸案事項に対する検討状況

コロナ禍の学校状況における子どもたちや学校への負担

- 実施日の調整
- 分析結果の提供
- 実施前の負担の軽減

「大阪市小学校学力経年調査」との重複感

- 教科横断的な問題
- 児童アンケート
- 「大阪市小学校学力経年調査」との関連

「教科横断的な問題」の位置づけ

- 効果的な学習アドバイスの提供
- 教材としての活用
- 公表の工夫

4. 大阪府新学力テストへの参加の意義

- 「大阪市小学校学力経年調査」と「大阪府新学力テスト」により、短いスパンでP D C Aサイクルを回すことでよりきめ細かい指導ができる。
- 「大阪府新学力テスト」と「中学生チャレンジテスト」により、小学校・中学校ともに大阪府内での学力状況を分析することができる。
- 児童が自らの強みを知ることで、2学期以降の学習意欲を高め学力の向上に繋げていくことができる。
- 学校・教員は、非認知能力等の分析による子ども一人ひとりの躊躇と良さを府提供データにより把握し、2学期以降の指導改善に繋げていくことができる。

各種学力調査による学びの検証改善サイクルを確立

